

タイトル：地元密着型の協働活動の継続・発展

令和3年度から本学学生によるピアサポート活動として徒歩10分の与儀小学校（以下、与儀小）での活動がある。与儀小では、登校しぶりなど同級生や大人とはなじみにくい生徒との交流・相談を、養護教諭と連携しながら展開している。クリスマスの時期には、保健委員と大学生との合同で、本学体育館に6年生全員が集まり、保健に関するテーマ（例：「ベアーズカードで自分の気持ちを表現しよう！」）のもと、生徒が興味を持ち楽しめるようゲーム形式で行っている。生徒にとっては大学生はお姉ちゃん・お兄ちゃん世代になり、生徒達とのヨコの関係でもない、大人（教諭、保護者等）とのタテの関係でもない、ナナメの関係として、生徒にとってはなじみやすい関係性になりやすいと考える。

与儀小でのピアサポートの実績を聞き依頼のあった寄宮中学校では、令和4年度から大学生による生徒への宿題補助や学習方法や進路等の相談、神原小学校では、朝ご飯を食べて来られない生徒等へ、ボランティアリーダーや教諭の指導のもとで、朝食（おにぎり・パン・味噌汁等）の提供（月～金曜開催）に、教員が主に週1回～2回、学生も不定期に参加していた。

令和5年度、地域活動は進化している。これまでは、学生と教員が地域（与儀小、与儀小まちづくり協議会の活動等）に参加する一方向的な活動がほとんどだった。しかし、令和5年度には、地域の高齢者、民生委員、専門職等が本学を訪問する双方向的な活動が見られ始めている。例えば、4月の入学式に合わせて、高齢者を中心とした地域住民が体育館前や正門前の花壇の土づくりや花植えを行ったこと、看大祭では、地域の高齢者たちによるJazzバンドの演奏等があった。

さらに、本学学生の起業サークルが収益の一部を与儀小のニーズに基づいて、体育館や運動場で熱中症対策として使用する「熱中症指数形（アラーム）」を寄贈したことは特筆すべきことである。校長先生・養護教諭をはじめ、保健委員の生徒を中心に大変感謝されている。

令和5年度から、小離島で高校がないため那覇市近郊に進学する高校生へのピアサポート活動として、モデル的に多良間村中学校、保護者、役場、在沖郷友会等と協働で展開している。月に1回、高校1年生と本学学生（ピアサポート希望者）が集まる。毎月、高校生のニーズを聞きながら、ランチ、スポーツ大会、ウォークラリー、自炊とお金の使い方ミニ講話等を開催した。令和6年度も継続予定である。

大学コンソーシアム沖縄による「子どもの居場所ボランティア（有償）」としては、学生の出身地（宮古・八重山を含む）を中心に、子ども食堂や学童クラブ等での活動を継続参加している。

ボランティア活動は、学生にとっては足元にある地域活動に参加することで、生活者や地域の視点の涵養につながることを期待している。令和4年度の指定規則改訂で、「在宅看護論」が強化され「地域・在宅看護論」となり、「療養する人々」から「生活する人々」へと看護の対象の捉え方が強化されている。また、地元の人々の健康と生活に寄与することを目的として、社会との協働により、地元の自律的で持続的な創成に寄与する「地元創生看護学」が提言されている。このような動きの中で、看護基礎教育の一機関として、科目以外に加えて、地元密着型の協働活動を継続・発展させることで、生活者や地域の視点を持つ未来の看護職者の育成につなげていきたい。